

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 29～

平成 27 年



毎月 10 日発行

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3 階

電話 03-6304-8212 FAX 03-6304-8213

E メール info@syobunkyo.org

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

目次

27 年度事業日程決まる	2
第 4 回「仲間」青柳響子（大東文化大学 4 年）	6
「えんぴつ筆」で導入授業、北山幼稚園	10
今月の検定作品	12
第一回審査代表に井上孤城先生	13
東西南北	14

コラム

「こころ」（大平恵理・書文協会会長） 「きのう 今日 あす」（渡邊啓子・副会長）
「教学半」（池田圭子・教学参与） 「文鎮」（佐藤貴子・指導主任）

27 年度事業日程決まる

継承発展掲げ 新 5 カ年計画スタート

桜前線が足早に列島を北上して行きます。2010年(平成22年)、東京・中野に一般社団法人日本書写能力検定委員会(2012年、日本書字文化協会に改称)を設立してから丸5年、6度目の春です。年度当初に年間事業計画が確定するのは初めてです。今年度を初めとする新 5 カ年計画では、日本の伝統文化と、それを支える日本語の継承発展を掲げ、公共性を大事に諸事業を進めていきたいと思ひます。皆様のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

新規事業に検定改革、硬筆教材出版、修学前幼児毛筆授業

検定の改革は、硬筆に続いて毛筆においても行われます。ドリル効果が大きい現行の検定は残す一方、多くの人々が書写書道に取組み、学びを継続する仕組みになることを目標に新毛筆検定が創設されます。

硬筆教材は、幼稚園・保育園の幼児向けに幼児版上下 2 冊が出版されます。最初に文字書きに取組む教材として最適です。級も取れます。

続く新硬筆検定テキストとして 15 巻シリーズ(計 120 課題)が発行されます。幼児版を含め各巻 B5 判 64 ページ、本体価格 600 円プラス消費税です。4 巻まではすでに発行されており、5 巻以後は 5 月から毎月 1 巻ずつ発行されます。1 巻は 1 年生標準で、中学 1 年生標準の 7 巻から行書が登場します。発行が間に合わないお教室については、冊子が発行されるまで、ばらプリントなど代用教材をご用意いたします。

8 月 21 日には、ドラえもんとお大平会長が教える「きれいな字が書ける」(小学館刊行)が全国の書店に並びます。小学生用硬筆教材の極めつきです。

毛筆手本集も刊行予定

修学前幼児の手書き(毛筆)授業は、東京都府中市の幼稚園で 103 人の年長幼児を対象に、正課で毛筆を使う一斉授業を行うもので書文協として講師の派遣など授業に協力します。

書文協では、毛筆検定改革を進めると同時に大平恵理揮毫による毛筆手本集もできれば年度内に発行したいと思ひています。



満開の東京・中野通りの桜

誓いの春



中野に本部を構えて六度目の春を迎えた今年、念願のお花見会を開きました。満開の桜の花びらが折からの風に舞う四月三日のことでした。東京中野の哲学堂公園に集まったのは、書文協本部の常勤メンバーら約10人。こんなにゆっくりと桜を眺めたのは久しぶりです。まだまだ十分な活動ができていませんが、スタッフに深く感謝するとともに、ふうっ、と深呼吸する気分でした。

この日の夕刻、帝国ホテルで開かれた長野秀章先生の東京学芸大学教授退職記念パーティーに招かれ、書写書道界の多くの方とお会いしました。何人もの書文協審査委員の方々がいらっしゃいました。むかし大学でお世話になった先生も「ヨオッ」と声をかけてくださいました。書文協を支えて来ていただいた方がこんなにいらっしゃるのかと、この五年間の御恩を思いました。

そして、現実に私たちを支えていたただいのは、全国の書を学ぶ皆さんです。毎月の検定作品、コンクール出品作品を見るたびに、各地でがんばっている生徒さんたちの顔が浮かびます。各地講習会でよく合う顔もあります。そうした姿に、私たちはどんなに励まされてきたのでしょうか。これからも、それぞれのお教室の後ろから、私たち書文協も書の学びのお手伝いをしたいと念願しています。

指導法、テキストを研究開発し、審査を専らの仕事とする私たちも、一番大事にしたいのは生身の生徒さんたちです。大会や検定試験の開催団体として、公共性を大切に、そこで学ぶ生徒さんを大事に今年も進んでいきたいと思いません。てらいなく咲く桜の花に、改めてそう誓いました。

27年度日程



ライセンス試験は4回実施

中野本部教室でのライセンス試験実施日

学校教育部門 8/30 2016・2/28

生涯教育部門 5/31 11/29 いずれも日曜日

本部会場以外でもこの日程の前後に認定試験場で試験が行なわれます。本部から該当者申請書等が送られますのでご注意ください。



新硬筆検定試験は偶数隔月実施

新しくスタートした硬筆課題検定(新硬筆検定)は、書文協が行なう全国書字検定試験の一貫として行なわれます。楷書と行書を一本化しているのが特色で、課題数は120課題。ぐんと濃縮された硬筆の学びを進めるもので、検定試験は4、6、8・・・の偶数月に行なわれます。受験課題数の制限はありません。実施月末本部必着で作品をお送りください。合否2択判定で、合否の理由が分かる「評価の観点」書付で翌月末までに返送します。

一般検定は月末締めきり

他の検定試験は毎月末締め切り、翌月15日までに返送とします。検定についての問い合わせなどは佐藤貴子(事務局長、指導主任)までお願いします。



大会は例年通り日程で

第4回全国書写書道総合大会	表彰式 11月3日(火) 都内
ひらがな・かきかたコンクール	作品締め切り 7/31
学生書写書道展覧会	同 9/19
全国硬筆コンクール	同 9/19
第4回全国書写書道伝統文化大会	表彰式 平成28年3月6日(日) 都内
全国年賀はがきコンクール	作品締め切り 1/16
学生書写書道展覧会	同 1/16
中央審査会(席書地区大会運営委員長らも参加)	9/26(土)

27年度日程



会員総会は5/10 オリ・セン

平成27年度会員総会は5月10日（日）午後1時から、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町）で開きます。終了後3時からオリ・セン内で懇親会（会費2000円）を開きます。



大阪錬成会の様子

総会記念講習会5/9, 10

総会を記念した講習会も9日3コマ（1コマ90分）、10日1コマ行なわれます。総会・懇親会・記念講習会のお申し込みは、月刊書字文化3月号ウェブ版に申しこみ用紙がついています。ホームページからお入りください。



書写書道専修学院は年40回授業

書文協の附属教育機関「書写書道専修学院」は26年度と同様に年間40回授業（週1回、90分）とします。1コマ90分と長時間のため、生徒の集中が途切れないように工夫を凝らす必要があります。

随時通所生制度を検討

また、今年度から小学4年生以上に限り、月謝に1,500円をプラスすることで、週何回本部教室に通っても良い「随時通所生制度」を設けることを検討しています。ただし、1回のメイン授業以外は自習とします。また、時間帯によって空席がない場合は、メイン受講者優先となります。火・金は午後8時、月・水・木は6時、土は6時半鎖されます。

特訓

オリ・セン宿泊特訓 7/29－7/30

夏季特訓 7/19－7/31

冬季特訓 12/20－1/7

第4回「なかま」青柳響子（大東文化大学4年）

「なかま」は、これで4回目となります。第3回伝統文化大会表彰式での井上俊樹君の謝辞も「なかま」に加えますので、白根将大（まさひろ）君、谷知美さんで計3人を紹介したことになります。いずれも高校生が続きましたが、4人目は大東文化大学文学部中国学科4年生、青柳響子さん（21）です。

「なかま」は、幼児も含め、書に親しむ子がお互いの思い、考えを知るために掲載しています。小さい皆さんにも登場してもらいますので、出てみようと思う人は連絡ください。インタビュアーは谷口泰三（書文協専務理事）です。（編集部）

—響子ちゃんは東京都の西端、

青梅市の古里（こり）にある教室に通っていたのでしたね。きっかけはなんでしたか。

青柳 兄が通っていたのです。

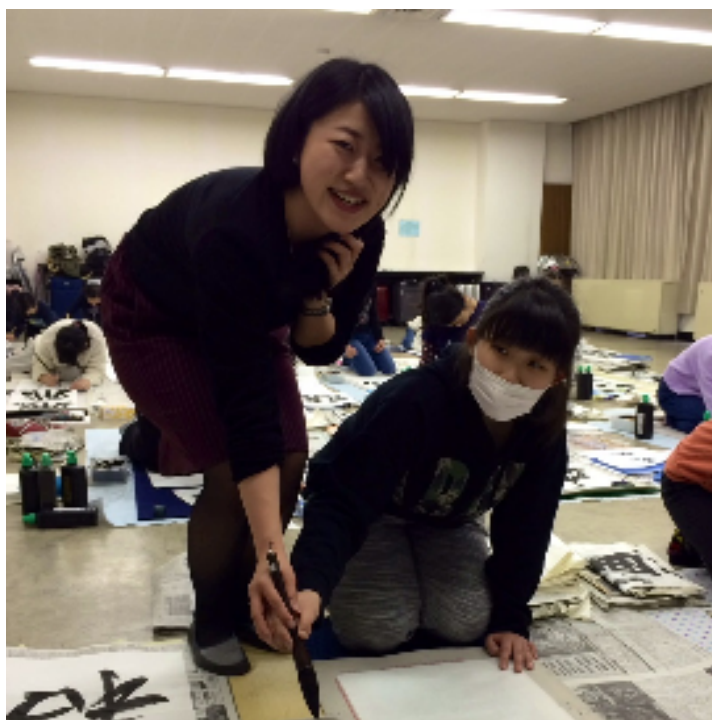
とても楽しそうだったので、

私も小学5年生のときから

通い始めました。

—それでどうだった？

青柳 上手になったことがち



大阪講習会で講師役をする青柳（平成27年3月29日）

やんと形かたちになって、目に見えるようにわかるんですよね。書道しよどうって。それですっかり好きになりました。水泳すいえいや英語えいごなどほかの習ならい事こともいっぱいやったのですが、書写しよしや書道しよどうだけが長く続ながきました。

—上達じやうたつが目に見えるからというのは皆みな言うよね。でも君きみは大学進学だいがくしんがくにまでつながつたのではないかな。大東文化大学だいたうぶんかだいがくはなぜ選えらんだの。

青柳あおやぎ 推薦入学すいせんにゅうがくだったのですが、哲学てつがく、中国語ちゆうごくご、書道しよどうと自分じぶんがやりたいことがそろっていたのです。

—なるほど、中国哲学ちゆうごくてつがく（中哲ちゆうてつ）やインド哲学てつがく（イン哲てつ）をやりたかった、という話はなしはよくきくね。漢字かんじは中国ちゆうごくから伝つたわったしね。今いまの日中2国間関係にちちゆう こくかんかんけいをどう思いますか。

青柳あおやぎ 中国ちゆうごくそのものに興味きょうみがあった、ということです。国同士くにどうしの2国間関係くにかんかんけいは緊張きんちやうしていますが、国民同士こくみんどうしは別だべつと思います。キャンパスには中国ちゆうごくの子こもたくさんいますが、仲なかは良よいです。

—2年までは埼玉県東松山さいたまけんひがしまつやま、3年ねんから東京都板橋区とうきやうといたばしくの本部ほんぶキャンパスで学まなんでいるのでしたね。

青柳あおやぎ 東松山ひがしまつやまでは寮りやうでしたので、一人暮らしひとりぐは2年目ねんめ。今いま、料理りやうりにはまっています。大根だいこんや根菜類こんさいるいの煮物にものとか。

—自分じぶんのチャームポイントはどこだおもと思いますか。

青柳あおやぎ 黒髪くろかみです（と、長ながい髪かみをなでる）。

—4年生ねんせいになって、いよいよ就活しゅうかつ（しゅうかつ、就職活動しゅうしょくかつどう）だね。ストレートまなに聞きく

よ。書で身を立てる気はありませんか。

青柳 ウーン。理想的にはそうですけど、現実味ないですね。

— (書文協の目的の一つが「職業としての書写書道の確立」なので) 理想的には、
と言っただけでもよしとしましょう。身を立てる、とはいかにも古い言い方だよね。

現実的には？

青柳 中学の国語教員、図書館司書、日本語学校の先生などいろいろ考えているの
ですが、まずは教員免許を取ることですね。東京都の国語は中学・高校一緒なので、
チャレンジしたいと思っています。

— 私 (谷口) は新聞記者になるなら教員免許を取っておくことを先輩から強く
言われましたね。誤解されるといけないけれど、記者やれない体になっても教師な
らやれるからと。結局、さぼって教職課程の単位が取れなかったんだけどね、単位数
が多いからね。早稲田大学時代。響子ちゃんは土曜日には中野の教室に来て、先生の
補助として熱心に子どもたちに教えているね。教えることは好きですか。

青柳 教えることって自分にもすごく勉強になるんです。

— そう、教学半 (教えることは学ぶことの半ばなり) と言うからね。

(最後に青柳さんはつぶやくように言いました)

青柳 中学校で書写を教えたいです。

きのう

今日

あす

書文協副会長 渡邊啓子

「コツと骨」



ときおり素敵な和服姿の方を街中で見かける。
その方その方でスタイルは様々だが、いつも「いいなあ」と
振り返って見入ってしまう。
着物も着付けで「楽」か「苦」かが決まってしまうようで、
その人の腕にかかっているという。
ある番組で着付けの指導をしていた。

その先生曰（いわ）く、「結びは骨のところですのでコツ。だから【コツ】
って言うでしょ…」

な～るほど！

【コツ】って【骨】からきているのか… 言葉の成り立ちはやっぱりおもしろ
い！と釘付けになってしまった。

確かに人体を支えているのは骨であり、それなくしてはあり得ない。それほ
ど大切なもので、骨格で着るのよ。と諭しているようでもあった。

そのもの自体の指導はもちろん、その枠を超えた、ちょっとした言葉遣いで
あったり、しぐさはその先生の豊かさが感じられた。

着付けを終えた方の姿は、骨格が支えられ、背筋がシャキッと伸びている。

書を書く上でも姿勢は基本。心と技術、骨格を兼ね揃えて、白と黒の世界に
臨みたい。

(編集部注)語源由来辞典によると、骨は体の中心にあり身体を支えることから、転じて、
人間の本質や素質を指す「コツ」という言葉を生みました。ことの本質をつかみ、自分のも
のにすることを「コツをつかむ」といいます。

「えんぴつ筆」で導入授業

北山幼稚園修学前園児手書きプロジェクト

北山幼稚園（山縣迪子園長、東京都府中市西原町3）が4月から、年長児103人(うち女兒52人)の正課授業に毛筆指導を取り入れることになり、書文協も園児指導に協力することとなりました。書文協からは池田圭子・教学参与を派遣し、月2回、正課の中で一斉指導を行ないます。

このプロジェクトは、幼児に日本の伝統文化に触れさせたい、という北山幼稚園と、小学校低学年での毛筆指導の研究を進める全日本書写書道研究会の長野秀章理事長（前文部科学省教育課程課教科調査官）の要請を受けて、書文協が新時代の毛筆書き園児指導を探る社会貢献授業として進めるもので、あくまで「園児の学びは遊び（体験）から」という幼稚園教育要領の精神を順守しつつ進めます。折に触れてこの機関紙でも授業の様子をレポートしていきます。

試験授業で園児は大乗り気

試しの授業は3月24日、春休みの園に預かり保育で来ている今年度からの年長児47人に対して行われました。新学期からの授業では103人の年長児を6班に分け、1班20分ずつの指



導を展開する予定です。3月号で既報のように、同園は教室スペース区分が自由な円形校舎になっており、この日は16、16、15人の3班編成で子どもたちが文字書き用に空けられたスペースに次々に移動して来る形で行なわれました。文字書きでない時間は、他のことの授業を受けています。

試験授業は、書文協「恵風3号」（中筆）をそろえて実施しました。指に持ち方注意の赤丸シートを貼られた園児らは、もの珍しさもあつてか、楽しそうに集中して空中に筆を走らせました。（写真）



4月21日（火）から始まる授業では、長野教授推奨の「えんぴつ筆」=写真、誠文社試作中=をまず使ってスタートさせます。えんぴつと毛筆の両方を園児に体験してもらい、その橋渡しを試みる授業です。同園では「えんぴつの国・ペンシリア」がすでに正課でえんぴつ書き指導を年長児に行なっており、連係して手書き指導を進めます。

教 学 半

書文協教学参与 池田 圭子



緊張しても実力発揮を！

4月になり、新しい学校、新しい友達、新しい職場と緊張することが多いことでしょう。なかでも、自己紹介などはドキドキしてしまいますよね。緊張といったものは、なかなか自分ではコントロールできないものです。

書写でも、検定試験、講習会の作品提出、大会での席書きと、緊張する方もいらっしゃるでしょう。実は、私もその一人です。子供のころ席書きの大会で、これは上手に書けたと思った時ほど、賞には縁遠く何かトラブルがあったときほど、思わぬ良い評価を受けたものます。これは、トラブルがあった時は、賞のことなど頭になく、ただ無心で書くことに集中するからではないかと考えられます。

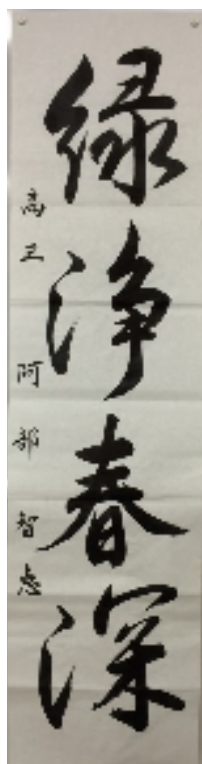
また、大人の方のほうが、子供より緊張しやすいことも事実です。それもやはり、大人の方ほど色々考えて意識してしまうからで、年齢の低い方ほど、あまり深く考えすぎずに書くことができるからかもしれません。

検定試験は、残念ながら失敗してしまったとしても、再受験という方法があります。ただ、大会はそうはいきません。その学年のその大会での作品はそれだけです。思わず緊張してしまいます。そんな時、やはり自信をもって書くことが重要になってきます。本番では、十二分の練習を重ねて十分の力で書くことができる。十分の練習で八分の力で書くことができると、考えておくとよいでしょう。そう考えて自分で納得した練習をして、自信を持って大会に臨むことで、緊張は少しほぐれるかもしれません。

緊張は人それぞれですが、たくさん経験と自信で乗り越えていきましょう。



今月の検定作品から



文 鎮

書文協指導主任 佐藤貴子



熱こそ始めなり

3月29、30日で大阪の講習会に行ってきました。年長さんから先生方まで大勢のみなさんに受講していただきました。真剣に練習する姿がすごいといつも思っていたのですが、今回はさらに強く感じる2日間でした。

私が初めて講習会に参加したのは、たしか小学3年生の頃でした。初めて持つ大きな筆、また初めて書く大きな紙に圧倒され、周りのお姉さんお兄さんに圧倒されていました。講習会中は「先生のようにになりたい」「ちょっとでもお手本の字に近づきたい」と思いながら練習をしていました。

その日は明け方まで皆さん練習していたと思います。私は小さかったため、眠気が勝ってしまい練習することができず、字でも負けているのに、練習時間でも負けてしまう自分が悔しくて、家に帰ってからいろいろな思いから、熱を出してしまったほどでした。

今回の大阪講習会。先生から手を取って教えられ、字を書くたびに、丁寧に吸い取りをして左側に置き、一つ一つお手本の字を確かめながら書いている受講生たち。その姿に、自分が初めて受講した講習会を思い出していました。

「熱」こそ学びの基本ですね。

第1回臨書展審査代表に井上孤城先生

作品展は6／9－14、青梅・澤乃井ギャラリーで

漢詩「楓橋夜泊」の中国蘇州・寒山寺碑文を題材とした「第1回臨書展」（日本書字文化協会主催、青梅市(東京)日本中国友好協会、中国書法学院、蘇州・寒山寺、中国国立南京芸術学院。蘇州呉昌碩研究会後援）は、3月31日締め切られました。作品整理を終えて行われる審査会の代表は井上孤城(輝夫)・全日本書写書道教育研究会長にお願いすることが決まりました。書文協の常任審査顧問の井上先生は、書道が学校教育で禁止されていた戦後混乱期に東京学芸大学で書道を専攻、近年は日本の書を見直す諸外国から、その作品が高く評価されています。

優秀作品展は6月9日（火）から14日(日)まで、青梅市の澤乃井ガーデンギャラリー（青梅市沢井・小澤酒造 澤乃井園内、〒198-0172 東京都青梅市沢井2-770、電話0428-78-8215）で開催されます。アクセスはJR青梅線沢井駅より徒歩3分です。

日独友好記念アート本表紙に孤城作品

この3月、来日したドイツのメルケル首相の発言が波紋を広げました。来日中の会見や講演では、フランスと和解した歴史認識問題や廃炉を決めている原発問題について踏み込んだ発言をしました。日本と置かれた戦後の状況が異なる、など受け取り方は様々ですが、国際化が進む中で日本、日本人が問われる場面が増えてきました。

井上顧問は、このところ国際的に注目されています。既報のように、昨年4月には、タイの国立シラバコーン大学客員教授に就任されました。同国の美術系大学の最高峰の同大では、東西の美術の殿堂になることを目指しており、その過程で書写書道教育の権威でもある井上顧問に注目しました。

食が世界文化遺産に指定され、和に対する世界の関心が高まっていますが、昨年の日独友好20周年を記念してクリエイティブ・アイエムエス社（東京・中野）が出版したハードカバー、350ページ近い豪華非売本「FOUND ART」の表紙を孤城作品が飾りました（写真）。日独の「芸術の絆」を現す同本で詩歌絵画彫刻などの諸作品の中から孤城作品が選ばれたのは、和を象徴するその力強い筆致に編集者が惹き付けられたからでしょう。



東西南北

12年目の桜に感動

群馬県太田市 大澤 幸江

2003年に、私の夢が叶い書写教室を、開設することが出来ました。

その年に、双子の孫が生まれ、記念に桜の木を植えました。しかし、待てど暮らせど毎年葉桜で、花を咲かせることもなく、年月の経つのは早いもので、孫たちも6年生になります。

そんなある日のこと

今年も葉桜かな・・・

と庭に出てみると一輪の桜の花が咲いているではありませんか・・・

驚きました

心がわくわくして、楽しみにしていたかいがあつたと感激し思わず目に涙がうるうるしてきました。

一枝教室に飾り生徒やお母さんたちに、うきうきしながら感動した話をしました。

来年も、再来年も、これからもずーと、桜の花と共に成長しつつ、切磋琢磨し、目標を持って日々楽しく書写書道の指導をしまいたいと思っております。

